



木材をふんだんに用いた明るく開放的なミーティングスペース。2021年に創業60周年を迎え、本社社屋もリニューアルされた。他にも、社内には大規模な講演や研究が実施される食堂兼シアタールームも設けられ、働きやすい職場環境の整備にも余念がない



ジェットエンジンのタービンディスクや発電用のボイラーの配管材は、700℃を超える環境で使用されるうえ、強力な遠心力や内圧を受ける。単位時間でどれくらい材料が伸びるのかを把握することは、設計や運用上の定期検査をするために欠かせないデータとなる

**世界が認める高技術で
人々の安心安全を支える**

普段何気なく乗っている車や、子どもたちが公園で使う遊具。これらの安全性の陰には、数えきれないほどのテストが行われていることをご存知だろうか。国内最大級の独立試験所「株式会社キグチテクノフラス」は、身近な遊具や自動車を始め、飛行機やロケットなどの航空宇宙、火力発電所などのエネルギー業界で使われる金属や複合材などの品質や性能評価を実施。国内外の、ものづくりを支え、私たちの暮らしに安心安全を生み出すとともに、未来を創る最先端の技術にも大きな力を添えている。

「銅の町」として知られる島根県安来市で1961年、高級特殊ヤスキハガネの研磨を手がける会社として創業した。その技術を生かし、機械加工や試験部門に事業を拡大。試験会社としては後発組だったことから、ISOマネジメントシステムなどの国際規格を積極的に取得する戦略を進め、2010年には航空手冊業界での国際的認証プログラム「Nadcap」を取得。GE(ゼネラル・エレクトリック)を始めとする世界3大航空機エンジンメーカーのすべてから認証を受けるなど、国

内外の大手企業から高い評価を得ている。

同業他社に負けない特徴的な強みが、試験素材の切り出しから熟処理、加工、試験評価まで、全国でも数少ない一貫体制を築いていることだ。高品質、短納期、低コストを実現し、国際的な競争力を生み出した。年々増加する受注に応じて設備投資も積極的に進め、高温での材料特性を評価するクリープ試験機約350台、疲労試験機約80台を所有し、世界有数の試験ラボとして認知されている。

**培った技術力を生かし
新領域のニーズに応える**

現在は、「コロナ禍で激減していた航空機需要も回復。「期初から好調で、毎月過去最高の受注を達成している。期待通りの状況」と武久浩之専務。主軸事業である航空機産業関連の業務はもとより、新分野である「空飛ぶクルマ」に関する素材の評価試験、民間ロケットを中心とした宇宙産業関連の材料試験など、従来の取り組みを加速させることで新たな領域への進出がうかがっている。「大きな環境の変化の中でこの一年でさまざまな調査を行って気づいたことは、材料試験の分野を開拓していくことで、我々がまだまだ成長してい

株式会社 キグチテクニクス
未来のものづくりを創造
世界を舞台に活躍



大手航空機メーカーの研究技術職から移籍した武久専務。「企業内での生産活動だけでなく、研究分野での活動も多様になってきてる。入社後の博士号取得や研究機関への出向など、社員の成長に向けた環境整備や、スキルアップ教育も積極的に進めたい」

試験業務において、最初に必要な工程は試験片の製造で、顧客に提供された素材を小さなピースに加工するのが主な仕事だ。この業務を担当する製造2課で、社内でも特殊な作業を担当するのが大久佐恵幸さん

**高精度の加工のみならず
最新の成型機での研究開発も**

けるということ。新規事業にも取り組んでいくが、従来の材料試験の分野にさらに注力し発展させる取り組みを加速させていきたい」
また、コロナ禍に大きな環境変化をもたらした、2020年10月の「2050年カーボンニュートラル(CN)宣言」によるエンジンからEVへの開発シフトの高まりにも例えは、水を運ぶ際には、冷却して液体水素としてタンクに充填して運搬します。このようなタンクは、極

めて低い温度下で安全な運用を行う必要があります。そのためには我々が長年培ってきた「材料試験」の技術で、タンクの材料が安全に使用できることを保証することで、CNに貢献できます」と自信を垣間見せる。
創業時より受け継がれる高い技術力をベースにしながら、激変する外部環境や技術革新に適応する進化の歩みを日々進めている。



株式会社 キグチテクニクス

事業内容

製造業、検査業

創業 昭和36 (1961) 年11月1日
 代表者 代表取締役 木口 貴弘
 社員数 186名 (男153名 女33名)
 本社 島根県安来市恵乃島町114-15
 電話 0854-22-2619

採用エリア (勤務地)

安来市

採用担当者からあなたへ

さまざまな企業情報に触れて、それぞれの企業の魅力を知ることが企業研究につながってゆきます。研究を進める中で当社にも興味を持ってもらえると嬉しく思います。企業もまだ成長過程です。みなさまと共に成長できればと思います。



総務部管理課 係長 宮原 竜也さん

資料請求・お問い合わせ先

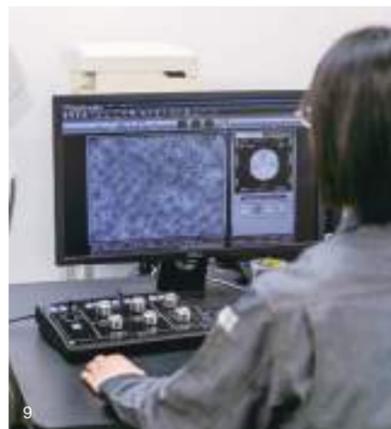
採用直通 TEL

080-8247-6083

採用直通 E-mail

miyabara_t@kiguchitech.co.jp

公式サイトはこちら



1 2 3 3Dプリンタを操作する大久佐さん。「多様なニーズに応えるモノづくりができるよう、様々な加工機を使用するように技術を習得したい」 4 5 6 試験内容によっては30~40個の試験片が並び、同時に高温から低温下まで様々な条件下で強度や耐久性を求める試験を行う 7 8 9 電子顕微鏡や光学顕微鏡を用いて破面の様子を観察する沖さん。「部署でチーム一丸となって仕事を進めることを心がけています」



材の元々の形やどのように作られたのかといったバックグラウンドを把握することで、組織解析、試験品質も向上します」と話す沖さんは、さまざまな勉強会に参加し、スキルアップに励んでいる。

入社3年目には上司からの勧めもあり、先端金属材料の研究拠点である島根大学次世代たたら協創センターに8か月間の出向も経験し、超合金に関する産学連携の共同研究を担当した。「研究の内容はもちろんですが、第三者的な視点、外部からの視点で会社や自分の業務を見つめ直す良いきっかけになりました。出向時は、特に他部署の人ともコミュニケーションをとる機会が多く、営業部門の方々と接する中で刺激を受けて、「コミュニケーション能力が向上したと思います」

変革し続ける 世界のキグチテクニクス

近年では、確固たる材料試験ビジネス基盤の下、国内はもとより海外からの受注も増加しているという。「2019年にはアメリカ法人を設立したが、現時点では海外顧客から発注を受けた業務を国内のラボで試験実施する形が主力となっている。韓国や台湾をはじめアジア各国からの受注も増加してきており、今後はヨーロッパにも力を入れていきたい」と武久専務。さらなる成長のために「新しいことにチャレンジしてきた歴史を持つ会社なので、新しいことを面白がってくれる人、苦勞することも楽しみながらやってくれる人と一緒に仕事したい」とよびかける。

材料特性や組織などを調べる試験部。試験片を引っ張ったり、曲げたり、壊したりして、強度や耐久性、安全性、靱性などを評価する強度試験の中で、クランプ試験を担当するのが、強度試験課金属材料係の吉元壮さん(23)だ。最大50トンもの荷重をかける引張試験機では、マイナス196度の液体窒素雰囲気です

世界有数の規模と技術を誇る試験ラボ

社内でも特殊な作業のエキスパートとして活躍し、発電用風車の内部を3Dスキャナで計測するため九州から東北まで全国を飛び回るなど、多忙な日々を送っている。

ものづくりが好きで、松江高専の学生時代には個人で3Dプリンタを購入し、雑貨などの小物を制作していた経験もあり、「入社以前の技術や知識が活かせる業務をさせてもらっています」と笑顔で話す。

電子顕微鏡によるミクロ組織の解析も

島根大学総合理工学部で有機化学を専攻した沖根奈さん(27)は、疲労試験課組織解析係で金属の組織解析を担当。薬品で腐食させた金属表面を、光学顕微鏡や電子顕微鏡で観察してミクロ組織を解析している。金属組織を最大50万倍もの大きさで見ることができる電子顕微鏡。「試験片は細かく加工されていますが、素

(25)だ。大久佐さんは、3Dプリンタなどの造形機を使った作業や3Dスキャナによる測定を担当で「業務の中には、離れた場所から造形機を動かすといった遠隔製造の実証事業などもあり、研究や開発の側面を持つ業務が多いですね。一人で担当するので、円滑に業務が進むよう心がけています」

実験を行ったり、逆に10000度以上の高温環境下で引っ張ったりすることも。切欠きの入った試験片を高速で振り下ろしたハンマーで破壊するシャルピー衝撃試験もある。「予想と異なる結果が出てスケジュール通りにならないことも多いですが、半年から一年間にわたる試験の成果が出たときは、安堵感とやりがいを感じます」と吉元さん。

米子工業高校の機械科で学んでいた吉元さんは、会社見学に訪れた際、使い方も想像できない機器が並び試験部門と綺麗に整備された職場環境が印象に残り入社を決意。入社5年目を迎え「試験技術向上はもちろん大切ですが、様々な業務に触れることで知識と視野を広げ、どのような事にも対応でき頼りにされる人になりたい」と抱負を語る。